

## 令和6年度（第62回）埼玉県硬筆展覧会参考手本課題語句

小1

いか たこ あさり

小2

一年生と いっしょに 学校たんけんを しました。  
手を つないで あん内しました。

小3

六月七日（金）  
休み時間に、友だちとおにごっこをしました。  
思いきり走ったので、たくさんあせをかきました。

小4

「おはよう」  
友達からの  
元気なあいさつに  
心がはずむ  
わたしも伝えよう  
気持ちをこめて

小5

人は、自分が好きなことなら、少しぐらいつらくでも続けることができます。  
そうするうちに、工夫や研究をするようになり、ますます好きになるだけでなく、  
上達していきます。

小6

俳句は、五・七・五の十七音の言葉で表現された、世界で最も短い詩です。短  
歌とともに日本の伝統的な文学で、江戸時代から現代にいたるまで多くの人た  
ちに親しまれてきました。

## 中 1

拝啓

若葉の緑が目にしみるころとなりました。

皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。こちらも家族一同、元気に暮らしております。

さて、先日はたくさんのいちごをお送りくださりありがとうございました。毎年のことながら、お心遣いをうれしく思いました。

最後になりますが、風邪などひかれませんよう、お体を大切になさってください。

敬具

## 中 2

2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「カーボンニュートラル宣言」が行われた。脱炭素社会の実現に向けた取組があちこちで行われている。

夏を迎えるたびに、地球温暖化について考えさせられる。日本は温室効果ガスの排出量が世界で5番目に多い国だ。このままでは地球の未来は危うい。

明るい未来を築くために、今、私たちにできる取組を考えていこう。

## 中 3

— 吾、十有五にして学に志す —

「論語」の有名な言葉である。十五歳は志学の年と授業で学んだ。なぜ勉強するのか。その答えが分からずに、なかなか机に向かうことができなかつた。今も答えを見つけられずにいる。

しかし、覚悟を決めた。学ぶことで、学ぶ本当の意味が理解できると信じている。

時代を超えて、一つ成長するきっかけを得ることができた。

## 高 1

幼少の記憶の闇の中に、処々ぼうっと明るく照らし出されて、例えば映画の一断片のように、そこだけは極めてはっきりしていながら、その前後が全く消えてしまった、そういう部分がいくつか保存されて残っている。そういう夢幻のような映像の中に現われた自分の幼時の姿を現実のこの自分と直接に結び付けて考えることは存外むつかしい。それは自分のようでもあり、そうでないようでもある。自分と密接な関係のあることは確実であるが、現在の自分とのつながりがすっかり闇の中に没している。

## 高 2・3・4

そこで芋粥を飽きるほど飲んでみたいという事が、久しい前から、彼の唯一の欲望になっていた。もちろん、彼は、それを誰にも話したことがない。いや彼自身さえそれが、彼の一生を貫いている欲望だとは、明白に意識しなかつた事であろう。が事実は彼がそのために、生きていっていると言っても、差支えないほどであった。——人間は、時として、充されるか充されないか、わからない欲望のために、一生を捧げてしまう。その愚を晒う者は、畢竟、人生に対する路傍の人にすぎない。

※高 1 課題は 『銀座アルプス』 寺田寅彦 著

※高 2・3・4 課題は 『芋粥』 芥川龍之介 著

※手本の配布時期は、例年と同じ 5月ごろを予定しております。

※その他、詳細の連絡は学校をとおして行われますので、それまでお待ちください。